

あなたも、防災博士

知って得する防災の知恵

■ビニール袋が固定具に!

大地震などでケガをした時の応急手当に使える活用術。ビニール袋の両サイドを切り、手に持つ部分を首に掛けるだけです。雑誌などを添え木代わりにすると、より患部が安定します。



■ツナ缶がろうそく代わりに!

ツナ缶の油を利用したランプです。缶に穴を開け、芯を差し込みます。芯には綿のひも等がよいですが、コーヒーのフィルタをこよりにしても使用でき、2時間くらい持ちます。火が消えた後は、中身のツナも食べることができます。

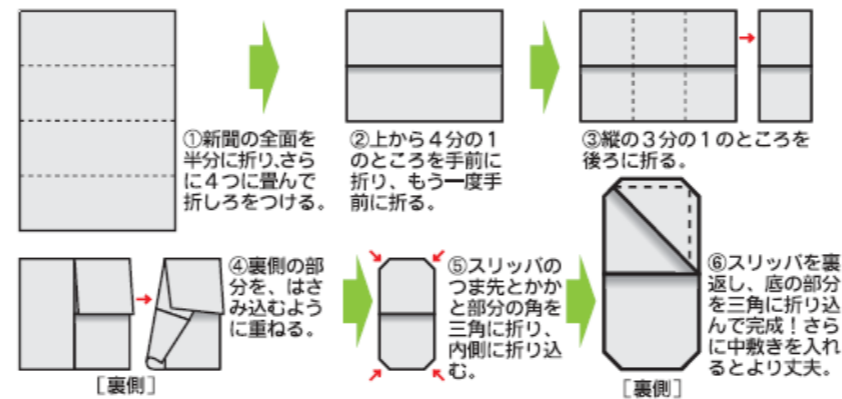


■“新聞紙”活用法!

新聞紙は応急的な添え木になったり、防寒対策に使えたりと、災害時に役立ちます。新聞紙でつくった簡易スリッパ、意外と温かいですよ。



【新聞紙スリッパをつくってみよう】



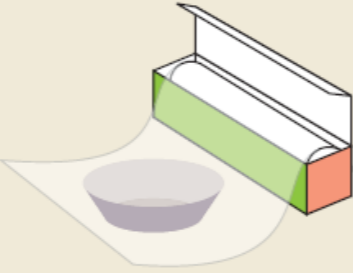
■ゴミ袋は、防寒衣や雨具に変身!

45リットル以上のゴミ袋を用意。災害時、逆さま(開口部を下)にして上と左右に穴を開ければ、あっという間に防寒衣に変身、雨衣としても使えます。



■節水や防水対策には、ラップを使用!

キッチンにあるラップは災害時にはとても役立ちます。お皿に巻いて使用すれば節水対策、携帯電話やスマホに巻けば防水対策もできます。また、身体に巻けば防寒対策にもなり、そのまま長く伸ばせばひもの代わりに。いろいろ使える便利グッズです。



簡易トイレのポイントは?
ビニール袋に新聞紙や「シュレッダーくず」を入れると効果的(^o^)/



新聞紙がスリッパ。
ゴミ袋は防寒着
知恵は、使い放題
(‘◇’)ゞ

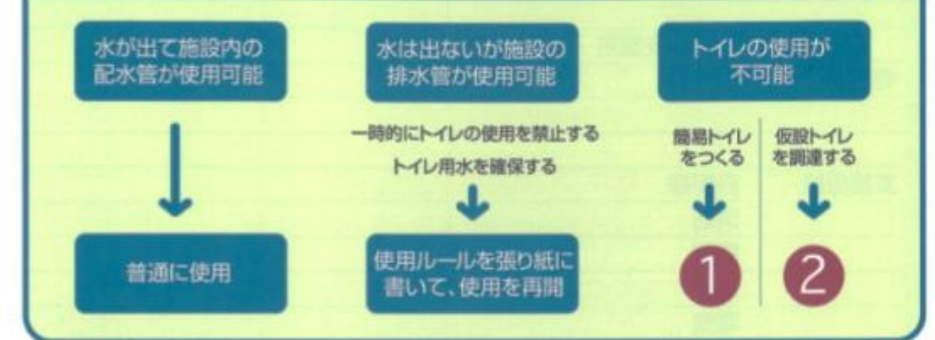


トイレは毎日使う
とっても大切

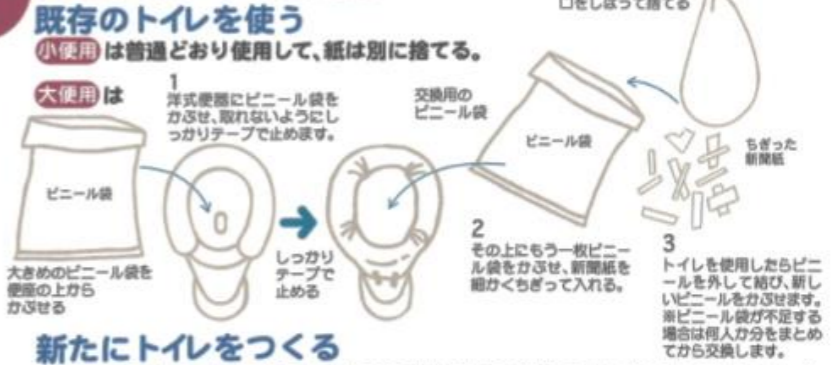
トイレ使用マニュアル

災害後、最初に必要となるのがトイレです。しかし無秩序にトイレを使用すると、すぐに使用できない状態になります。避難所ではまずトイレのチェックを行いましょう!
※それぞれ使用に関しては、掃除当番を決め定期的に見回りをするなど十分な衛生管理を行います。

トイレの使用可能状況を確認



1 簡易トイレの作り方



新たにトイレをつくる

都市部では下水マンホールを利用、土地のある場所では穴を掘ってトイレを作ります。ダンボールやバケツを利用して簡易トイレにする方法もあります。作り方は既存のトイレ大使用を応用ください。

2 仮設トイレを調達

トイレが不足する場合は行政や支援団体に仮設トイレの設置を要望します。
仮設トイレ設置の注意点 ※トイレの数の目安は100人に1台以上です。
●生活の場から遠すぎると高齢者などの移動が大変。●生活の場に近すぎると匂いの問題が発生。●夜間も照明などが設置できる場所。●清掃車が近づける場所。

